

# 未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

## 住民自治・行財政分科会 議事録

日 時	平成21年 8月11日 (火) 19:00 ~ 21:00		
場 所	高月町役場 4階 D会議室		
議 題	男女共同参画社会の実現及び広域行政の推進について		
出席者	押谷友之委員、東野 司委員、北川 薫委員、川西章則会長、西村和洋副会長、速水賢昭委員、小柳芳恵委員、落合武士委員、馬場鉄一委員、岡本 茂委員		
市	分科会事務局 岩根理事、小川参事、武田主幹		
6 町	高月町水上政策広報室長		
傍聴者	あり (○人) ・ <input type="checkbox"/> なし	報道機関	あり (○○新聞社) ・ <input type="checkbox"/> なし

### 【協議結果】

#### ① 決定事項

- ・ 前回 (7月15日開催分) の議事録を承認。

#### ② 次回日程とテーマ

- ・ 次回日程 10月6日 (火) 19:00～
- ・ 次回開催場所 「 虎姫町時遊館展示室 」
- ・ 次回テーマ 「 健全で効率的な行財政運営について 」

#### ③ その他

市の他の所管課への要請等 (分科会事務局対応)

- ・ 特になし

### 【主な意見】 (要点筆記)

会 長	本日は第3回目の委員会。長浜市議会で役員改正があり、福嶋議員が副議長になられ、前副議長の北川議員がこの委員会に加わっていただいた。
A委員	今回から参加させていただく北川です。事務局から、今までの経過説明は頂きました。皆さんと共に考えていきたいと思っておりますので、よろしくおねがいします。
会 長	<p>前回、7月15日木之本町で開催した議事録について、ご意見を賜りたい。</p> <p>— 特になさいますので、承認し当分科会の議事録とします。</p> <p>前回、合併基本計画に添った主要な施策をテーマに議論を進めると決まり、今日は男女共同参画社会の実現、広域行政の推進について意見、提言を願う。まず男女共同参画について、市の担当課から説明いただき、議論に入りたい。</p>
担当課	<p>市の男女共同参画の概要を6町の様子も踏まえながら、簡単に説明します。</p> <p>= 担当課説明 =</p> <p>男女共同参画とは</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしく輝き、誰もがお互いを認め合い、生き生きと暮らすことができる社会。</li> <li>・男女の人権が等しく尊重され、自らの意思によって、あらゆる分野で活躍でき、お互いが支えあい喜びも責任も分かち合える社会。</li> </ul> <p>女性人材バンク「かがやきネット」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長浜市の審議会は約50あり、約750名の委員のうち女性は211人。女性委員数を増やすため、かがやきネットから委員になってもらう。</li> <li>・市内に在住、在勤する20歳以上の女性、市の施策に関心のある方、特に難しい資格を持つ必要なし。約60人が登録。</li> <li>・合併にあたり、6町の女性にも登録を呼びかけ中。男女共同参画は男性も女性も共に生きやすい、共に輝ける社会を作りましょうという目的で進めている。</li> </ul>
B委員	私の地域では女性が参画する「女性フォーラム21の会」がある。会員は18人。町長との対話やイベントのほか、行政へ提言もしている。
C委員	平成11年県条例が改正後、行政として積極的な取り組みはない。しかし婦人層で有志が集まり、様々なまちづくり活動等がある。生活習慣あるいは地域の習慣が根強く、性差をどの程度理解し認識しているのか、年代によっても違う。
D委員	私は中学校のPTAで、良い意味で女性らしさが活きると思い、重要なポストに女性を抜擢し活躍いただいた。残念ながら次年度へ継続しなかった。県南には女性委員や会長さんがいる。どんどん女性に参加いただき、しがらみのない、生活の中で意見を期待したい。
会長	女性のまちづくりへの参画意識はあるが、どう促していくかが課題。
E委員	田舎ほど女性が進出することは難しい。また議員は、選挙で押し上げられるもので、その器が必要。長浜市には、なぜ婦人会がないのか。また“女性人材バンク「かがやきネット」”、6町への募集方法は。
担当課	市婦人会は、各地域に組織があり、その上に市の組織があった。市の審議会委員などへは、婦人会から参画いただいていた。女性委員を増やす目標を掲げた結果、婦人会活動内の比重が多くなったこともあり、生活と婦人会のバランスが崩れたと聞く。ただ、市の連合婦人会はなくなったが、地域で残しているところもある。“かがやきネット”登録は、6町の男女共同参画の事務担当課にパンフレットやかがやきネット登録のチラシを配布し、ホームページや広報などで呼びかけている。
F委員	男女参画社会が進んでいるのは教育の場、学校です。しかし教育現場や職場、政策方針決定の場は行政が入り込めても、男女分離の感覚を育てる家庭には入れない。また夫の理解がなければ、仕事も活動もできない。その意味で、若い子育て中の親の意識改革が大切。男性は結果重視で女性は倍頑張る必要があり、男女参画が煩わしくなる。優秀な人はたくさんいるのにもったいない。
副会長	育児休業制度がある市内事業所は、2007年は89.2%。真っ先に導入した県でも男性は育児休業を1人も取っておらず、本質的な問題があるのでは。栗東市の自治会役員に係る以前の調査結果は、男性のみだったが今は女性が10%超。なぜ県南は変わったのか、大事なポイント。

担当課	国はワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という取り組みを進めている。仕事、地域、家庭や余暇のバランスを取って豊かな生活を送ろうという視点。男性が子育てを望んだ時に、制度が整っていることも大切。大津では男性が遠方勤務のため、自治会の配布物などを実質的に女性がしていることが多く、自治会長も女性という発想が生まれ、女性の自治会長が増えていると聞く。
会長	いただいた資料によると男女平等になっていると思う人の割合と、男は仕事、女は家庭という考え方に反対している人の割合が、平成11年に上がったのに落ちている。
担当課	単純に、男女共同参画の意識が高まったが、実際にいろんな壁にぶつかり、『結果が必要』といった辺の意識が働き、下がったという見方がある。また男女共同参画に対する意識が浸透した結果、今まで当たり前と思ってきた部分に矛盾を感じ下がったという見方もある。どちらにせよ、まだまだ課題は多いと認識している。
D委員	まちづくり、サークル活動等、女性の方が先頭に立っており、結果もある。
G委員	本質的な哲学の部分にしっかりとした教育があれば、問題は起こらない。女性の社会参画の基盤は家庭だと思う。そして男達は、教育、家事、介護に至るまで全部押し付ける。その中で「社会参画せよ」は無理。男女平等は、明確な性差があって、役割分担、違いを尊重しあえる社会でない。
担当課	いきすぎた考えの中、男女共同参画が揺れた時代があった。今は男女の性差を認め合った上で、どう輝き、生きていくか。家庭で専業主婦として活躍する女性を否定するのではなく、自分の意思で選択できているかが大切。
A委員	男女の性格的な持分を、いかに伸ばして、組み合わせることができるか。個々の得意分野や特性は、各個人、男女、それぞれに差がある。それは地域間でも同じ。全体でどうするのか、生かし方、引き出し方を、市民みんなが学ぶ必要がある。
H委員	女性は“倍頑張らないといけない”という意見があったが、頑張るけど、持ち味をなくしてはいけない。都会では男女が対等の立場で意見を言えるが、田舎では男性から頭ごなしに怒鳴られ、女性は萎縮してしまうこともある。地域性の違いは厳然とある。ユニバーサルデザインとは、しょうがいのある人もない人も、皆同じ様に生きていける社会を作っていく考え方のことで、男女の部分も含まれ、見方としては面白いと思う。
会長	全てバリアがないのでは、支えあう意識が欠ける。また家庭の問題は男性の理解と同時に、お年寄りの意識を変えていく必要もある。
副会長	医師不足というが、4割が女性。専門職において女性が出産・育児休業となると、仕事が成り立たないが、男女が協力することで社会的な機能を担っていることを理解すべきだ。女性が復帰すれば、医師不足も解消するが、今は難しいらしい。
F委員	私は、父がいて、母が支えて、父は母を命をかけて守るのが理想で、その中で個々の特性を生かせる社会がいい。私は、自分の意思で5人の子育てをしてきた。「子

- 育て」は女性の生き方の一つで、社会貢献だと私は思う。
- C委員 1市6町の実態をみた場合、地域差が相当ある。また年齢により認識も異なる。情報交換を頻繁にし、正しい認識を持ってもらえれば、意識改革は浸透する。
- G委員 機能的な違いと役割的な違いが男女にあって、それを超えたところで社会参画するときに、機会の平等、処遇の平等、評価の平等、が図られているかが大切だ。
- 会 長 今後は、行政もメディアを通じてわかりやすく情報発信をお願いしたい。
- F委員 伊香郡の女性は強く、健康推進委員は県下でも戸数に対する率が高い。上手に引き上げれば、長浜と接点を持つことで益々活躍する人たちがいると思う。
- 会 長 最終的には、みんなの意識がどう変わったかが大切。  
もう一つの広域行政の推進について。1市6町の行政事務は調整され進んでいくと思うが、大きな枠を超えた長浜市と他の県域、隣接の地域、そういった広域連合が、合併後の市の重要な推進力になっていく。
- D委員 男女に限らず、平等という言葉を使うと分かりにくい。今回の合併も同じ。市の中心部も郡部も、地域毎の特性がある。限界集落での暮らしや人口集積地で都市機能が必要な部分を、相互が理解し、施策を費用対効果だけで画一的に判断しないことだ。
- G委員 連携という意味では、大河ドラマの浅井三姉妹がある。観光の広がりは分からないが、様々な行事を通じ交流は深まる。ただ広域合併したエリアの中で南高北低が生まれる。具体的には不明だが、定住自立圏構想もある。
- C委員 市の周辺部を活発にし、結果的に中央に人物金が集まるやり方がいいのでは。隣村と結いの精神で自治会機能を補完しあっており、新市では、まちづくり協議会で行政に頼ることなく、市民が相互に助け合い進めていく形が必要だと思う。
- G委員 22年以降の長浜市は、南高北低が必然的になる。人も投資も流れるから、まちづくりは、高月辺りを第二の都心とする必要があるのではないかと。
- 会 長 県では、彦根の人口を増やし副都心にしようとしたが思うほど人口が伸びず、議員の数からいくと大津におされ偏ってしまった。
- G委員 県庁が移転すれば、大きく変えられる。
- H委員 高速道路だが、北陸自動車道、名神、東海北陸自動車道と、日本海から日本の真ん中までグルッと一周できる。私は、交通の要衝であるこの地域が、米原を含め、日本のほぼ中央として活躍するまちづくりに大きな期待感を持っている。  
韓国の釜山港は、欧米を抜き世界一の物流港である。そこで、敦賀港を日本の対アジアの玄関口に位置づけ、それを長浜市が取り込み、様々な形で世界に情報発信する。物流拠点の整備確保により、地域に活気を与えていく広域連携も面白いと思う。
- E委員 それは同州制で、敦賀、北陸をうまく取り込めるか。

- D委員 隣の揖斐川町からは、行事やイベント広告が頻繁に来る。また敦賀は、鉄道の直流化の割に京阪神から人・物が流れず期待した効果が出ていない。これは地域間の連携が不足している結果だと思う。合併後の長浜市は、道路も直流化のメリットも生かし、観光、産業、様々な面で明るい材料を活かしたまちづくりができる。
- C委員 先人が名古屋から揖斐川に上り琵琶湖から西浅井に行った。日本海にぬける運河計画という過去の歴史もある。大きな夢と希望を持って着実に進めばいい。
- 会 長 夢は、現実になることがある。
- 副会長 伊香郡の人口が増えない理由は、地理的要因以外に、風習等を嫌って他へ出て行くからだと思う。伝統は大事だが、同時に、若者が定住し易い環境、老若男女が参画しやすい社会ができれば、自然と広域行政にも繋がっていくと思う。
- A委員 地域の良さを生かしたまちづくりは、地域の人しかできない。予算がなくても手作りでできる方法を考えていく。今は県も市も金がない。皆で情報や意識を共有し、話し合い、納得してまちづくりを進めていかないといけない。
- 会 長 住民自治の真髄で、各地域が自らまちづくりを進めていくことが大切だ。  
次回の委員会は10月6日 虎姫町で19：00から テーマは健全で効率的な行財政運営とします。